

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-31	14-104	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Prospective study of alcohol consumption and self-reported hearing loss in women. 女性における飲酒量と自己申告による聴力低下に関する前向き研究		
執筆者		
Curhan SG, Eavey R, Wang M, Stampfer MJ, Curhan GC.		
掲載誌		
Alcohol. 2015 Feb;49(1):71-7. doi: 10.1016/j.alcohol.2014.10.001.		
キーワード		PMID
飲酒、聴力低下、前向き研究、疫学		25468591
要 旨		
目的		
<p>過度の飲酒は慢性的には不可逆的な聴力低下と関連し、急性的には一過性に聴力機能を障害することが報告されている。一方で、長期的な中等度飲酒は、聴力低下リスク軽減と関連がある可能性がある。本研究では、女性を対象とし飲酒量と聴力低下リスクの関連について、前向き調査を行った。</p>		
方法：		
<p>Nurses' Health Study II (NHS II)に参加した 65,424 名を対象とした。ベースラインの年齢は 27-44 歳であり、フォローアップは 1991-2009 年に行った。飲酒量は 4 年ごとに質問票にて調査した。聴力低下の発症は自己申告の情報から定義した。Cox 比例ハザードモデルを用い、交絡因子を調整した解析を行った。</p>		
結果：		
<p>1,024,555 人年のうち、聴力低下の発症は 12,384 件であった。多変量調整後、総飲酒量は聴力低下リスクとの有意な関連を認めなかった (Trend P=0.09)。探索的解析にて、ビール摂取は聴力低下のリスク増加 (Trend P<0.001)に、ワイン摂取はリスク減少 (Trend P<0.001)と関連した。しかし、リカー摂取は聴力低下のリスクと関連を認めなかった (Trend P=0.09)。</p>		
結論：		
<p>女性において、総飲酒量は聴力低下と関連しなかった。ビール摂取はリスク増加と、ワイン摂取はリスク減少と関連を認めたが、これは偶然認めた結果である可能性がある。また、交絡因子が残存している可能性もあるため、さらなる検討が必要である。</p>		